

めぶきニューヨークレポート

MEBUKI NEW YORK REPORT

2022年12月号

- ◇ 【調査レポート】 ニューヨークの人流回復と外食産業の動向 P.1
- ◇ 【NYライフ】 ニューヨーク市立博物館 P.3
- ◇ 【ニュース一覧】 P.4

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所
712 Fifth Avenue 8th FL
TEL : +1-347-686-8420
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部



調査レポート～ニューヨークの人流回復と外食産業の動向～

ニューヨーク市においても、コロナ禍による経済への影響を抑えるためwithコロナを進めています。蔓延時のリモートワークの定着等あり人流の回復が遅れていましたが、徐々にオフィスワーカーも増え、今年の秋口以降、特に街の人の多さを実感しています。今回は人流回復に伴うビジネスチャンスレポートします。

1. ニューヨーク市内の人流の回復

(1) 市内の様子

- ✓ 当オフィスのあるニューヨーク市マンハッタン島は、山手線の内側と同等の面積の中に、約170万人の人がひしめき合い、高層オフィス、観光スポット、数多くのレストランが立ち並ぶ地域です。街を歩く時は、すれ違う人とぶつからないように注意するなど、混雑が常でした。
- ✓ ところがコロナ禍では、ニューヨーク市民は自宅待機を余儀なくされ、オミクロン株流行時は街や交通機関から人が消えてしまったと感じるほど人流は減少しました。
- ✓ ワクチンなどの普及を経て、現在は人流が回復していることを肌で感じられ、街も賑わいを取り戻しつつあります。

(2) オフィスワーカーの働き方の変化

- ✓ ニューヨークのオフィスワーカーにはフルリモート勤務が定着しつつありましたが、2022年に入ると出勤日数が増加しているという調査結果があります★1。
- ✓ フルリモート勤務を止めて出社しはじめた人の割合は、4月時点では38%でしたが、10月時点では49%まで上昇しています。
- ✓ 現在もフルリモート勤務をしている人は16%（4月比12%減）ですが、週5日出社していると回答した人は全体の9%に留まっています。「週3日出社し2日在宅する」などのハイブリッド勤務が全体の半数程度を占め、新たな勤務形態として定着しつつあります。

★1Partnership for new York city調査

- ✓ 一方で、オフィス需要は以前と変わらず、オフィス賃料は底堅く推移しています。
- ### (3) 観光旅行客の増加
- ✓ 観光客の増加も人流に拍車をかけています。2022年に入ると、各観光名所はコロナ禍前の賑わいを取り戻しています（表1）。2023年の米国の観光旅行客は、2019年を上回るとも予想されています★1。
 - ✓ また、国外からの観光旅行客による出費額もコロナ禍前の水準への回復が見込まれており★2、米国内の消費拡大に繋がるのが期待されています。

★2ニューヨーク州調査

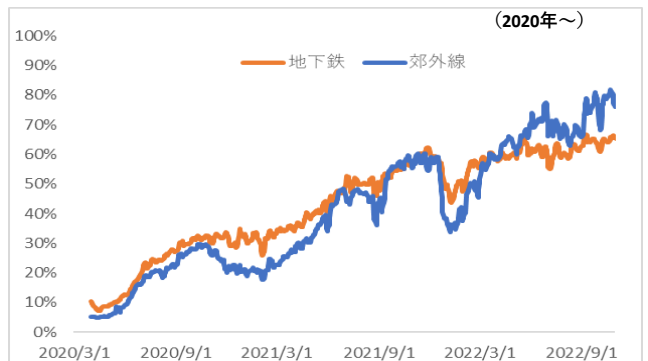
写真1 ニューヨーク市内の現在の様子



五番街

タイムズスクエア

図1 ニューヨーク市の主要公共交通機関の乗車率



【出所：ニューヨーク州】

写真2 電車等公共交通機関の状況



今年前半

現在

表1 観光旅行客数の回復

タイムズスクエア歩行者数 (昨年比)	+43%
エンパイアステートビル入場者数 (昨年比)	+300%
ブロードウェイの平均収容率	84%
ホテルの宿泊ルーム稼働率	86%
2022年オープンするホテル	38

【出所：City Guide】

2. 外食産業の状況と期待が高まる日本食

(1) 外食産業の状況

- ✓ 人流の回復を受けて、市内のレストラン予約数は増加傾向を示しています(図2)。
- ✓ オープンレストラン(写真3-1:密を回避するために店舗前に作られた簡易スペース)は、屋外での飲食が好きなニューヨーカーの人気を集め、コロナ感染対策と相俟って集客効果を生んでいます。
- ✓ テイクアウトやデリバリー需要も回復しています。昼時には、ランチを買い求めるビジネスマンの列やデリバリースタッフの姿が増え、コロナ感染拡大以前のニューヨークの風景が戻ってきました。

(2) 日本食の浸透

- ✓ 外食産業の復活により、日本食需要拡大への期待も高まります。筆者が前回赴任した2016年と比べて、街中には劇的に日本食が増えており、「Sushi」は現地スーパーでもサンドイッチの隣に並ぶほど市民権を得ています。
- ✓ 「Onigiri」や「Bento」も浸透しており、サバ焼き弁当、竜田揚げ弁当などのバラエティに富んだ商品が並んでいます。また、スパイシーツナOnigiriなどの当地独自具材やうなぎの蒲焼Onigiriが人気の具材のようで、フードショーでも列をなしていました。
- ✓ 人気の老舗スーパーの方の話では、従来日本人をターゲットとしていたようですが、最近は現地のお客さまがより多く来店するそうです。日本食が着実に現地に根付いてきていることがわかります。
- ✓ 今年5月にマンハッタンへ進出した日本食店は、店舗内での飲食に加え、**デリバリーや持ち帰り需要に注目した戦略**で成功しているようです。飲食スペースを減らし、店舗面積を縮小することで高い賃料コストを抑え、収益力の向上を目指しています。

(3) 規制や環境の変化も後押し

- ✓ 農産品輸出も拡大が期待できる分野です。2021年に福島県産のコメ輸入が解禁されましたが、干ばつの影響で米国産米の価格が上昇していることや、円安の影響で人気の日本米の価格が下がったことで、米国産米との価格差はほぼなくなり価格競争力が増えています。
- ✓ また今年9月、ニューヨーク市で日本食や食文化等をPRするイベントが開催されました。同イベントには岸田首相も参加し、官民を挙げて日本食の更なる飛躍を目指す姿勢を打ち出しました。
- ✓ 同月に民間団体が主催した日本食のイベント(写真3-6)も多くの来場者を集め、人気ぶりが伺えました。

3. おわりに

- ✓ 人流の回復とともに、様々な需要が高まりビジネスチャンスが広がっていることを肌身で感じます。
- ✓ 当事務所では店舗進出や輸出拡大などに関連するコンサルタントや不動産業者など専門家のご紹介なども可能です。引き続きお客様の海外進出のお役に立てる情報を配信してまいります。是非お気軽にご相談ください。

(お問い合わせ先: newyork@joyobank.co.jp)

図2 ニューヨーク市のレストラン予約の状況(2020年以降)

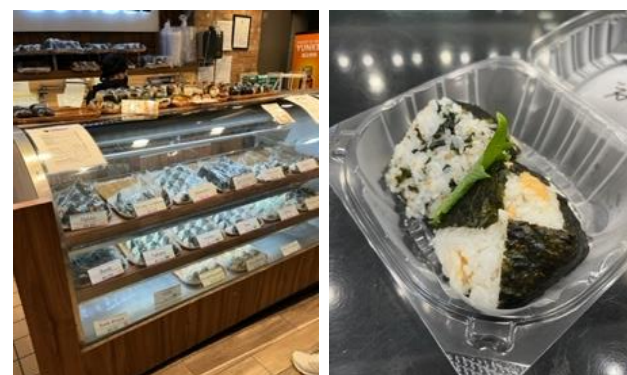


写真3 外食産業(日本食)関連の写真



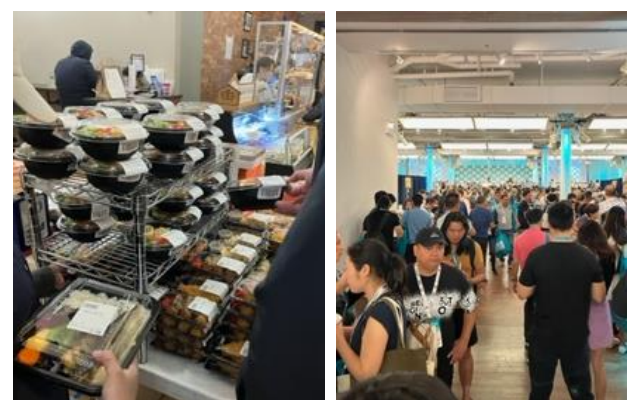
1. オープンレストラン

2. ビル前で待つデリバリースタッフ



3. スタッフは非日系人が多い

4. Onigiri(1個あたり2~3ドル台)



5. 昼時に山積みとなった弁当

6. 9月の日本食イベント模様

NYライフ ～ニューヨーク市立博物館～

【建物外観】

ニューヨーク市立博物館（Museum of the City of New York、MCNY）は、ニューヨーク市とそこに住む人々の歴史を保存するため、1923年に設立されました。ニューヨークといえばメトロポリタン美術館や自然史博物館など大きな美術館や博物館が知られていますが、この博物館はニューヨークをテーマとした様々な展示がされており、小規模ながらニューヨークについて深く知ることができる、とても面白い博物館です。



博物館は、マンハッタンのアッパーイーストにあるミュージアム・マイルと呼ばれる地域にあります。コロニアル・リバイバル様式の建物は、ニューヨークを舞台にした大人気ドラマ、ゴシップガールの撮影でも使用されており、ロケ地として多くのファンが立ち寄る観光名所でもあります。

【展示の様子】

【インタラクティブマップ】



常設展の「New York at Its Core」は、移民や貿易を受け入れる港都市、工場が並ぶ産業都市を経て、ビルが立ち並ぶ大都市へと発展していくニューヨークの姿を、450点以上の様々な展示物や写真を通して見るすることができます。人口の変遷がわかるインタラクティブマップでは、時代が進むにつれ続々と人が集まる様子わかります。

常設展の他に期間限定の特別展も開催されます。現在開催中の「Analog City NYC B.C. (Before Computers)」という展示では、現在のデジタル技術が導入される以前の1870年代から1970年代にかけて、ニューヨークの発展を支えた様々な技術が紹介されています。

【ライノタイプ】

右写真の存在感のある大きな機械、最初は何かわかりませんが、ライノタイプという自動鋳植機でした。それまでの活版印刷でそれぞれの職人が手作業で行っていた活字の鋳造と植字を行ごとに自動で行い、新聞・雑誌などの発展に大きく寄与しました。第一号機は「New York Tribune」紙に納入されたそうです。信じられない大きさですが、一人のオペレータのみで短時間で全ての作業ができるようになり、当時は革命的な発明だったそうです。



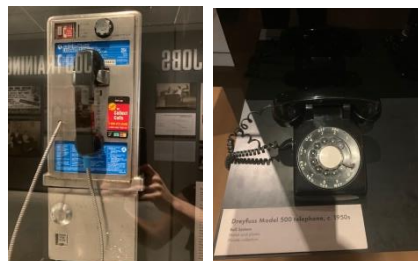
【Card Catalog→Dictionary Catalog→マイクロフィルム機】



人が集まるニューヨークには情報も集まります。図書館の情報管理では、カードを引出して保管するCard Catalog、それらのカードをアルファベット順に本に集約したDictionary Catalog、紙資料をコンパクトに保存するマイクロフィルムと、増え続ける情報を小さく、効率的に保存・検索しようという工夫の変遷が見られました。

【公衆電話と黒電話】

2000年代初頭、ニューヨーク市内には約3万台の公衆電話があり、人々の通信を支える身近な存在でした。しかし携帯電話やスマートフォンの普及によりほとんど利用されなくなり、代わりに現在はスマートフォンの充電ができる端末が街中に設置されています。右の写真は2022年5月23日に撤去された市内で最後の公衆電話です。撤去の様子はニュースでも取り上げられ、時代の変化を実感すると共に、少し寂しさも感じました。小さな子どもが珍しそうに黒電話に触れる姿も印象的でした。



情報の発信、検索、保存など、通信の全てを小さなスマートフォンで誰もが手元で行えるようになることは、当時の人々は想像もしていなかったことなのでしょう。しかしそれほど昔のことではなく、人によっては懐かしさを感じる展示品も多々ありました。それだけ、昨今の技術の進歩が速いということだと思います。改めてその速さに感心すると共に、現在の社会が様々な工夫と発明の上に成り立っていることを感じる事ができました。

【写真は全て筆者撮影】【ニューヨーク駐在員事務所 菱沼 いずみ】

News 一覧

<政治>

- ・バイデン大統領、英国スナク新首相と電話会談、「特別な関係」再確認 (10/25)
- ・米ホワイトハウス、ロシアが西側の商業衛星を攻撃した場合の対応を確約 (10/27)
- ・バイデン大統領、共和党の経済政策は「インフレを悪化させる」 (10/27)
- ・バイデン大統領、米第3四半期GDP受け、経済の「力強い前進継続」示す (10/27)
- ・バイデン大統領、エネルギー企業に利益還元を要請、懲罰的課税も示唆 (10/31)
- ・エネルギー省、戦略石油備蓄から1500万バレルを放出、6社へ売却し備蓄放出完了 (11/3)
- ・米インフル入院率が10年ぶり高水準、ワクチン接種率低下で、厚生省が警告 (11/4)
- ・バイデン大統領、北アフリカ・アジア歴訪 (11/11)
- ・民主党が上院で多数派維持 最悪シナリオ回避 (11/12)
- ・トランプ前大統領 2年後のアメリカ大統領選へ立候補表明 (11/15)
- ・FTX破綻、余波拡大 米議会下院委が前CEO招致へ 来月公聴会(11/16)
- ・米中間選挙 共和、下院過半数奪還 「ねじれ議会」に (11/17)

<金融政策>

- ・ニューヨーク連銀ウィリアムズ総裁、米企業の採用難を指摘、金融政策に言及せず (10/21)
- ・サンフランシスコ連銀デイリー総裁、利上げペース緩める時期に近づいている可能性 (10/21)
- ・FRB、0.75%利上げ、12月の利上げ幅縮小示唆、累積効果を考慮 (11/2)
- ・パウエルFRB議長、12月会合の利上げ幅縮小の可能性示唆 (11/2)
- ・ブレイナードFRB副議長、米金融システム、給食な引き締めに対応 (11/4)
- ・シカゴ連銀エバンス総裁、小幅利上げにシフトを、過度な引締め回避 (11/4)
- ・ボストン連銀コリンズ総裁、今後はより小幅な利上げ幅も (11/4)
- ・S F 連銀調査、米金融政策、政策金利が示すより引き締まっている公算大 (11/8)
- ・ジョージ米KC地区連銀総裁、金融政策、明確にまだやるべきことがある (11/11)
- ・アトランタ連銀総裁、米積極利上げでインフレ鈍化との証拠なし (11/15)
- ・FRB副議長、銀行資本要件、米国債市場流動性問題の原因で下位 (11/16)
- ・クリーブランド連銀総裁、米金融市場の脆弱性に緊急的な対応必要 (11/17)

<経済指標>

- ・中古住宅販売戸数：9月は471万件で8ヵ月連続減少、減少率は鈍化（予想470万件） (10/20)
- ・消費者景気信頼感指数：10月は102.5と前月から低下、市場予想下回る（予想106.5） (10/25)
- ・新築住宅販売戸数：9月は10.9%減の60.3万件（予想58.5万件） (10/26)
- ・国内総生産（GDP）：7-9月速報値は前期比年率+2.6%で3期ぶりプラス (10/27)
- ・米ミシガン大学消費者信頼感指数：10月（確報値）は59.9と、前月の58.6から上昇 (10/28)
- ・ISM製造業総合景況指数：10月は50.2で2年半ぶりの低水準（予想50.0） (11/1)
- ・非農業部門雇用者数：10月は前月比+26.1万人、市場予想を上回る（予想+20.0万人） (11/4)
- ・失業率：10月は3.7%に上昇（予想3.6%） (11/4)
- ・CPI：前年同月比で7.7%上昇し、伸び鈍化（前月+8.2%） (11/10)
- ・小売売上高：前月比1.3%増加し、市場予想の1%増を上回る (11/16)
- ・住宅着工件数：142.5万件（前月改定値：148.8万件）と前月を下回る (11/17)

（出所：各種新聞等、2022年10月下旬～11月下旬のニュースを抜粋）